

幅広い診療内容と細やかな
気配りで居心地のいい
大型歯科医院として人気を集める

松本陽子デンタルクリニック 院長 松本 陽子 先生



THE FRONT LINE 05-08

海外から訪れる患者も見据え、
国際レベルの診療環境を整える

医療法人社団 木津歯科 理事長 木津 康博 先生



DOCTOR'S TALK 09-11

ヘアサロンをビジネスモデルの参考に
気軽に足を運べるロードサイド型歯科医院

きずな歯科クリニック院長 水野 貴文 先生



2013. September Vol. 31

INSIDE REPORT

松本陽子デンタルクリニック



週替わりで変わるフラワーアレンジメントが華やかな待合室



車で乗り付けることができるエントランスを持つ建物



高級エステサロンのような美しいデザインの入り口

幅広い診療内容と 細やかな気配りで居心地のいい 大型歯科医院として人気を集める

松本陽子デンタルクリニック 院長 松本 陽子 先生

「松本陽子デンタルクリニック」は、盛岡駅から車で7分ほどの距離にある。開業から1年半、女性の院長らしい細やかな気配りと幅広い治療内容で、新しいスタイルの歯科医院として注目されている。



松本 陽子 院長



フラワーアレンジメントは院長が自分で生け替えている



定期的に変わる絵画も待合室をゆったりした雰囲気



患者やスタッフの視線が正面からぶつからないように、受付や待合室は斜めに配置

自分が通いたい 歯科医院のイメージを具現化する

国道沿いの遠くからも目立つアイボリーの建物。エントランスは、高齢者の通院も考えて、車で乗り付けることもできる。待合室には週替わりで変わるフラワーアレンジメントや平山郁夫などの名画が飾られ、白を基調にした診療室も明るく、広々としている。院長の名前をクリニック名にした「松本陽子デンタルクリニック」は、まるで自然豊かな高原にある人気ホテルのような居心地のよさだ。「自分が患者さんだったら、どんな歯科医院に通いたいのか。そのイメージを形にしました」と、松本陽子院長はほほえむ。

歯科医師を志す前は、美術大学に通いたかったと話すほど、美術やデザインが好きという松本院長。開業して約2年になる自身の歯科医院には、そのこだわりが随所に現れている。「歯科医師と美術は遠い分野のように思っていたのですが、勉強を始めて見たら、実習での石膏作りなどは美術的なセンスが求められます。頭の中で立体的に口腔内をイメージしたり、歯の形を思い浮かべることができるのは、美術が好きだったおかげかもしれません」

開業準備のため、口腔外科講座や 数多くのセミナーで研鑽を積む

松本陽子デンタルクリニックは、500坪の土地に建つ大型歯科医院だ。一般歯科はもとより、口腔外科、小児歯科、予防歯科、審美歯科、インプラントに加え、スポーツ歯科や顎関節症などの症例も扱う。

「大学卒業後、すぐに開業してもよかったのですが、開業医はどんな分野でも治療できなければならないと考え、札幌医科大学の口腔外科講座で勉強しました。外来と入院患者さんのどちらも担当し、幅広い分野が学べたことは、とてもためになりました。その後、盛岡に戻り、母校の岩手医科大学や開業医の先生の元などで勉強を続けてから開業しました」

松本院長の勉強熱心さは、セミナーやデンタルショーに足繁く通う姿勢にも現れている。インプラントや滅菌・消毒、審美など、興味があるテーマであれば、全国各地で開かれるセミナーに積極的に参加。デンタルショーも規模の大小にかかわらず、必ず参加し、少しでもよい器具や材料を探したり、先輩の歯科医師に教えを請う機会を逃さないようにしている。

「九州で開かれているインプラントの勉強会には月1回のペースで3年くらい通いました。今は小宮山先生、朴沢先生の勉強会でお世話になりall on 4などの難しい症例のときに相談するなど、お世話になっています。歯科医師は開業すると、大学病院で扱うような症例を勉強する機会が減ってしまいます。でも、開業医の元にもさまざまな患者さんが来院されますし、よほど難しい症例でない限り、自分の歯科医院で診てあげたい。そのためにも、これからも勉強は欠かせないと思っています」

家族を診療するような心配りで 患者の緊張感を和らげる

最近女性の歯科医師が開業するケースも珍しくない。歯科医療の知識や技術に性別による違いはないとはいえ、やはり「女性の院長先生だから」と松本陽子デンタルクリニックに通院している患者も多い。院長の名前をクリニック名につけたのも、

INSIDE REPORT

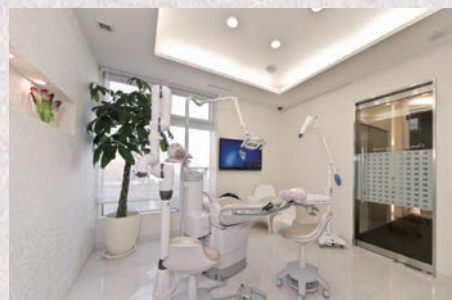
松本陽子デンタルクリニック



半個室風に仕切られた広々とした診療室



窓を大きくし、明るさを重視したトリートメントルーム



すっきりと整えられたケアルーム

誰が責任を持って治療をしているのか、患者に明確にしたかったからだ。

「歯科医院には、いまだに怖いというイメージがあります。治療をほうっておいた患者さんの中には、口腔内の状態が相当、悪い患者さんもいます。そうすると、ますます口の中を人に見せるのが恥ずかしくなってしまいます。でも、私の歯科医院には、女性の先生なら、ということで、思い切って来てくださる方が少なくありません。その気持ちを大切に、患者さんの期待以上のものを返さなければ、と気が引き締まります」

初診の患者には、必ず自分のフルネームを伝えて挨拶する。チェアの角度を変えるときは、声をかけてから動かす。唇を指で広げるときはゆっくりとやさしく、ていねいに動かす。話しかけるとき、患者の目を見て、様子を確認する。些細な対応のようだが、じつは患者が歯科医院の印象を決めるのは、こうした診療技術以外の気の使い方であることも多い。

「患者さんが自分の家族だったら、という気持ちで診療するように

心がけています。これは、私だけでなく、スタッフも気を使っている部分です。今は患者さんが歯科医院を選んで来院される時代です。私たちに大切な体を預けていただいているわけですから、その信頼にきちんと応える意識を持って診療に当たっています」

患者本位の治療を最優先にする松本院長の姿勢は、最先端の機器など、院内設備の充実度にも現れている。なかでも、注目したいのは、滅菌・消毒システムだ。器具の洗浄はもちろん、患者のうがい水やスタッフの手洗いまで、「エピオスエコシステム」による電解殺菌水を使用している。電解殺菌水とは、高純度の塩と水を電気分解させることにより、人体の白血球が持っている殺菌成分を生成した高濃度次亜塩素酸水だ。

「私が転んでケガをしたときに、電解殺菌水で消毒をしたら、化膿することなく、きれいに治ってしまったんです。それで、電化殺菌水に対する信頼を深めました。院内感染を防ぐことは、患者さんのためであり、私たち医療従事者のためでもあります。たとえば、肝炎などを持つ患者さんが自己申告してくださるのは、



インプラントオペ室。通路とはガラスの引き戸で個室化される



今年増築された80インチタッチパネルモニター完備の個室



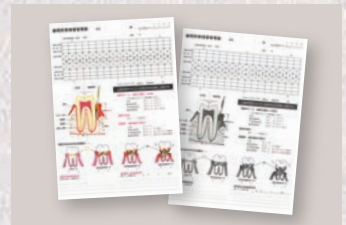
水流のスクリーンを壁に使ったカウンセリング室



受付の横にあるキッズルーム



滅菌・消毒にも気を配っている



歯周病の患者へ説明用として渡している資料

そう多くありませんし、分かったからと言って、その患者さん専用に器具をカバーするなどの対応をするのは、難しい面があります。それよりも、院内感染の予防体制を徹底するほうが、お互いに気持ちよく診療できます」

院長自らが率先して働くことで スタッフのやる気も引き出す

松本陽子デンタルクリニックのホームページには、院長のブログがあり、工事中の頃から、こまめに記事をアップしている。開業前から宣伝に力を入れていたおかげで、内覧会には大勢の人が訪れたという。

今年は増築し、院内を広げた。発展途中ということもあり、松本院長もほぼ無休で、毎日、クリニックに足を運び、気になる部分を修正している。

「好きなこともあって院内のお花はすべて私が調達し、自分で生けています。絵画の掛け替えも私の担当。院内のインテリアを考えることが、休診日の私のストレス解消にもなってます」と笑う。

松本院長は、「スタッフに気持ちよく働いてもらうにはどうしたらいいか、考えることも院長の大切な仕事。そのためには、自らが率先して動かなければ」と話す。

松本陽子デンタルクリニックは、患者の快適性を優先した結果、

スタッフが働く動線は二の次になっている。できるだけ、医療機器や歯科材料が患者の目につかないように奥にしまわれていることから、スタッフはそのぶん、体を動かすことで効率性をカバーしている。この動線の意味も理由をしっかりと説明しなければ、スタッフの不満につながってしまう。

「私のこだわりをスタッフにも共有してもらえるように、一緒に学ぶ姿勢を大切にしています。そのためには、よく話を聞き、話すというコミュニケーションの時間を持つことが欠かせません。それから、怒らないこともポイントです。今、歯科医院はようやくスタートラインに立ったばかり。私自身もスタッフも人間力を高めて、もっともっと患者さんに満足していただける歯科医院に成長させていきたいです」



松本院長とスタッフの皆さん

Profile

松本 陽子 先生

- 1993年 岩手医科大学歯学部卒業。札幌医科大学口腔外科講座で口腔癌、顎変形症、口蓋裂などの治療に従事
- 1998年 岩手医科大学歯学部口腔解剖学にて教育、指導、研究などに携わる。フリーの歯科医師として県内外で診療
- 2011年11月 松本陽子デンタルクリニック開業 ●日本口腔インプラント学会 ●口腔外科学会 ●MIG盛岡インプラントスタディグループ ●ITIインプラント修得 ●ブローネマルクシステムインプラント修得

松本陽子デンタルクリニック 岩手県盛岡市本宮2丁目43-11 TEL:019-656-4618 HP:<http://www.yoko-dc.com>

THE FRONT LINE

医療法人社団 木津歯科

落ち着いた雰囲気の待合室(OMFC)

高級感あふれるエントランス(OMFC)

ORAL & MAXILLOFACIAL
CARE CLINIC YOKOHAMA

明るい雰囲気と開放感のあるエントランス(DENTAL STATION)

白を基調にゆったりした雰囲気の待合室(DENTAL STATION)

海外から訪れる患者も見据え、 国際レベルの診療環境を整える

医療法人社団 木津歯科

OMFC(オーラル&マキシロフェイシャル ケアクリニック横浜)

デンタルステーションみなとみらい

デンタルステーションキッズ

理事長 木津康博 先生

横浜・みなとみらいの「木津歯科」は、一般歯科、小児歯科とともに、先進医療を提供する自由診療専門の施設を併設。国際レベルの総合歯科医院として海外からも注目されている木津歯科の歩みと将来をうかがってみた。



木津 康博 先生



中が見えないようにできる特殊ガラスを使ったカウンセリングルーム (OMFC)



充実した機器を揃えた個室の診療室 (OMFC)

一般歯科と小児歯科に加え自由診療の先進医療を提供する施設も併設

国際都市として開発が続く横浜・みなとみらい地域。2012年5月、木津歯科の新しい診療施設「デンタルステーションみなとみらい」と「OMFC（オーラル&マキシロフェイシャルケアクリニック横浜）」がオープンした。お父様の代から40年以上続く歯科医院を受け継ぎ、さらに大きく発展させている木津康博理事長。みなとみらいに加え、桜木町にも歯科施設を持つ。

木津理事長の目指す医療はシンプルだ。「患者さんにストレスなく、ベストな治療を受けていただく」ことを何よりも大切にしている。「私は長年、大学の総合病院で歯科治療を続けてきました。日本の歯科医療は大学病院を始めとする大きな医療機関と開業医院とに二分されています。そのため、幼い頃は小児歯科、成人になったら一般歯科、難しいケースは専門的施設というように、年齢や症状によって受診する場所が変わってしまいます。それでは患者さんに大きな負担がかかってしまう。一生を通じてどんな診療にも対応できる総合歯科医院を作りたいかったのです」

みなとみらいにある木津歯科の特徴は、保険診療を中心とした一般診療の「デンタルステーションみなとみらい」、その中に

小児歯科の「デンタルステーションキッズ」を併設していること。「デンタルステーションみなとみらい」の隣に自由診療の先進医療を提供する「OMFC」を設けたことだ。小児歯科から大学病院レベルの高度医療体制を整えたことで、木津理事長が理想とする患者の一生を通じての口腔ケアを行うことが可能になった。

誕生前から一生に渡って 歯科治療と予防ができる体制を整える

一生を通じての治療が可能になることで患者が得られるメリットは、診療経過が一つの歯科医院に蓄積されることだ。過去の診療記録や口腔内の変化などのデータが歯科医院を変えることで分断されることがなくなり、継続的なケアが可能になる。

そのスタートとなるのは、乳幼児期。「デンタルステーションキッズ」では、通常の小児歯科治療に加え、予防や食事指導にも力を入れている。なかでも、熱心に取り組んでいるのが、子どもがおなかにいるマイナスゼロ歳からの口腔ケア教育だ。

「虫歯菌の感染は母から子へ移ることから始まります。妊産婦さんの口腔ケアに対するモチベーションを高めるため、「マイナス1歳からの虫歯ゼロ教室」という講座を定期的に開催しています。



ガラスの仕切りでプライバシーを守る診療室 (DENTAL STATION)



待合室から右に入るとデンタルステーションキッズのエリアに

THE FRONT LINE

医療法人社団 木津歯科



全身麻酔にも対応したオペ室A (OMFC)



オペの研修で訪れる歯科医師も多い



オペ室Bの棚には様々なインプラントの器具を完備

赤ちゃんが生まれてからはカリエスリスクテストを行い、家族ぐるみで予防をサポートしています」

子どもが中・高校生になった頃からは「デンタルステーションみなとみらい」に治療の場は移行する。歯周病が増えてくる20歳以降になると、一般歯科の診療に加え、自由診療にはなるが歯周病の詳細な細菌検査を受けられる体制も整えている。そして、健康保険内では難しい医療が必要になった場合は「OMFC」での診療が可能だ。医科並みの手術室など、先端設備を持つ「OMFC」ではインプラントや光殺菌歯周病治療から再生医療まで、先進医療が行われる。また、オーラルドックを設け、粘膜や噛み合わせ、歯周病検査、嚥下テストなど、徹底的に調べ、そのデータを元にオーダーメイドの予防プログラムを立てている。

「私たちが目指すのは口腔から始まる健康長寿。いつまでも元気で口の健康を保っていただくためには、予防にも力を入れる必要があります。そのためには総合歯科医医院としての機能が必要になるのです」

医科並みの手術室を2室備えた 自由診療の歯科医院「OMFC」

保険治療を行う「デンタルステーションみなとみらい」と自由診療を専門に行う「OMFC」は隣り合わせにあるが、入り口は分かれ、患者同士が行き来することはない。

「OMFCは歯周病やインプラント、再生医療などの先進医療の場であり、日本顎顔面インプラント学会の認定施設でもあることから、セミナーやオペのライブビューイングが可能な研修室も備え、月に数回、全国の歯科医師が集まる勉強会も開いています」

「OMFC」は木津理事長が何年もかけて構想を練り、こだわった施設だけに、完全個室の治療室、オーラルドック室、徹底した滅菌・消毒システムやリカバリー室、技工室など、歯科医師が理想とする環境が整っている。その中でも特筆すべきは手術室だ。



スタッフの使いやすさも考え抜かれたオペ室器材棚 (OMFC)



オペ室のコントロール機器は1カ所に集約



オペ室Aとドアで仕切られ、患者をユニットから直接ベッドへ移動可能なリカバリー室

「オフィスビルという制約のなか、手術室を2室確保するため、設計段階からかなり工夫しました。設備をコンパクトにするため、塵埃を排出し、清浄な空気を送り込む空気循環システムを空調と一体化したタイプを選択し、无影灯を三角形にしたり、機能的で省スペースのアイデアを取り入れています」

三角形の无影灯は2台。組み合わせたときに円形のような隙間ができないことに加え、角度の自由度が高いタイプのため、口腔内の隅々まで照らすことができる。麻酔に関しても、麻酔医の管理のもと、静脈内鎮静療法や全身麻酔に対応。局所麻酔では処置が難しい患者の受け入れも可能だ。

スタッフの動線や使いやすさも計算されている。歯科衛生士長がまとめ役になり、収納棚の位置や大きさ、引き出しの高さなどもこだわって作られた。収納棚には、さまざまなサイズのインプラント器具がずらりと並ぶ。あらゆる不測の事態に備えているのだ。

手術室への出入りを極力、抑えるため、空調などの電気系統やモニター関係の操作盤も一カ所にまとめた。機器の収納に放送局などで使われるラックを選んだのも、スペースや操作性を考えてのことだ。これらの充実した設備と機能が評判を呼び、国内だけでなく、最近では海外で診療をする外国人の歯科医師が見学に訪れる機会も増えているという。

高い人間性を持つ人材育成と 他院との共同治療を積極的に推進

木津歯科が目指される理由として見落としてならないのが、国際レベルの歯科医療と質の高いサービスを提供していることだ。「スタッフは約30人。各部門にチーフを設け、現場を任せています。チーフクラスの会議は月1回、全員が集まる勉強会は3か月に一度の開催です。そうした機会を通じて、私が大切にしているのは、人としての成長です。技術があっても、人間性が伴わなければ、患者さんに満足していただける治療を提供できません。まずは挨拶がきちんとできることから。私は医療技術も人間性も伴った総合力の高い人と仕事がしたいのです」



本棚には医学書が並ぶ。研修(オペ中の映像もオンライン可能)も多い
研修室(OMFC)

OMFCには、全国から数多くの歯科医師が勉強に訪れ、症例の検討会では活発なディスカッションが繰り広げられる。木津理事長は「講義形式のセミナーより、ディスカッション形式で知識を高め合うことで、自分自身の勉強にもなる」と語る。

また、OMFCでは他の歯科医院との一部顎顔面歯科治療の共同治療にも積極的に取り組んでいる。たとえば、顎骨量不足を伴う骨造成手術、インプラント埋入手術、1DAYインプラント治療などをOMFCで行い、その後は患者を紹介してくれた歯科医院で治療を続ける仕組みだ。手術の際には、患者が不安や痛みを感じないように、全身麻酔や静脈内鎮静などのストレスフリーの併用手術をOMFCの手術室を使い、紹介医院の歯科医師と共同で施術することもできる。(※)

いまや医療もグローバル化の時代を迎えている。日本人、外国人を問わず、最良の歯科医療を提供すること。新しい日本の歯科医院の形がここにあると言えるのかもしれない。



木津理事長とスタッフの皆さん

Profile

木津 康博 先生

●1993年 東京歯科大学卒業 ●1997年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了。歯学博士授与。東京歯科大学オーラルメディシン講座助手 ●2000年 東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科医局長 ●2002年 カナダ・アルバータ大学ミゼルコルディア病院リサーチフェロー ●2004年 東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科医長 ●2006年東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座講師 ●2007年 横浜口腔インプラントセンター・木津歯科院長 ●2012年オーラル&マキシロフェイシャルケアクリニック横浜院長・理事長 「デンタルステーションみなとみらい」開院 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座臨床講師 ●東京歯科大学水道橋病院口腔インプラント科臨床講師 ●鶴見大学歯学部病理学講座非常勤講師 ●日本顎顔面インプラント学会認定研修施設長・指導医 ●顎顔面再建先進デジタルテクノロジー (ADT) 学会/日本部会 常任理事 など

医療法人社団 木津歯科

OMFC(オーラル&マキシロフェイシャル ケアクリニック横浜) HP:<http://www.kizu-implant.jp/>
デンタルステーションみなとみらい デンタルステーションキッズ HP:<http://www.kizu-dental.jp/>
住所:神奈川県横浜市西区みなとみらい4-6-2 みなとみらいグランドセントラルタワー2F TEL:045-232-4441

※ 共同治療をご希望の先生は、お問い合わせ窓口045-232-4443までご連絡下さい。

DOCTOR'S TALK

きずな歯科クリニック



交差点の角にあり、遠くからでも目立つ建物



オレンジが効いた明るい雰囲気受付と待合室



ゆったりした椅子の待合室



建物の内外はバリアフリーに対応

ヘアサロンを ビジネスモデルの参考に 気軽に足を運べる ロードサイド型歯科医院

きずな歯科クリニック 院長 水野 貴文 先生

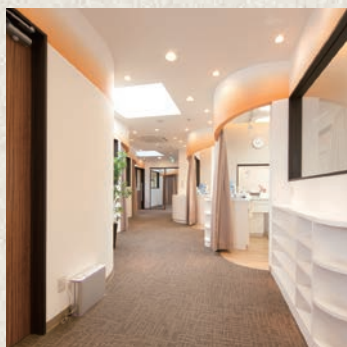
神戸市北区にある「きずな歯科クリニック」は、チェア12台を備える大型歯科医院。開業前からの入念な準備を経て、順調に成長している。人との絆を大切に、気軽に通える歯科医院づくりの秘密をうかがってみた。



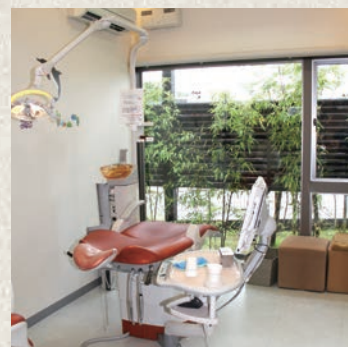
水野 貴文 院長



中央にスタッフの作業エリアを設けた診療室内



通路の奥が今年、増築した診療室や技工室につながる



外の緑が目によさしい個室の診療室

学生時代から開業医を目標に 理想の歯科医院像を練り上げる

「きずな歯科クリニック」があるのは豊かな自然の中にニュータウンがある地域。高速道路のインターチェンジからも近く、国道の交差点に建つ瀟灑な建物と院長の写真が掲げられた大きな看板は、遠くからもよく目立つ。

開業は、2009年11月7日。それから2年で6つの個室と技工室を増築。3台からスタートしたチェアも12台に増えた。

「土地の取得から開業までは1年ほどですが、構想には5年近くの月日を費やしています。理想の歯科医院を作るため、最初にこだわったのが場所でした」

学生時代から開業医を目標にしてきた水野貴文院長。これからの歯科医師は医療技術だけでなく、経営センスも必要と考え、学生時代から自治会長や居酒屋の店長、数百人規模のキャンプの運営などに積極的に取り組み、組織人としての経験も磨いてきた。勤務医時代は自分の理想スタイルに近い大型歯科医院にも勤務。数多くのセミナー参加やニューヨーク渡米なども経て、準備を整えてきた。そして、いざ開業、となったときにぶつかったのが土地の確保だった。「理想の歯科医院を作るには、利便性のよい幹線道路沿いで300坪以上の土地が必要でした。しかし、なかなか見つからず、何年も探し続けた結果、現在の場所がようやく見つかったのです」

健康維持のため、美容院感覚で 通しやすい歯科医院を目指す

水野院長は新規開業セミナーの講師も務める。講座で真っ先に話すのが、理想の歯科医院像をしっかりと固めることの大切さだ。水野院長も開業する際、理想の歯科医院の姿を練りに練った。そして、理想を具体化するために、土地を選定し、建物を設計。スタッフの確保や開業までのスケジュールを組んだ。新規開業を成功させる鍵は、理想の歯科医院像ありき、なのである。

「院長は歯科医師であり、経営者です。私は、歯科医院とはサービス業の一つだと思っています。質の高い歯科医療の提供は

当たり前のこと。それに加えて、いかに患者さんに不安感なく、気持ちよく通っていただくかに心をくだく必要があると思うのです」

水野院長がビジネスモデルの参考にしたのは、ヘアサロンだ。歯科医院は歯が痛くなってから行くもの、と思っている人でも、ヘアサロンは身だしなみを整えるために定期的に通う。歯科医院よりも、ずっと人々の日常生活に溶け込んでいる。水野院長は、歯科医院を症状が出てから行く場ではなく、ヘアサロン感覚で「健康な人が、より健康になるために行く場」にしたいと考えたのだ。

そこで、「きずな歯科クリニック」の設計はライブハウスや美容サロンなどを手がけてきた建築家に、ロゴなどのグラフィックデザインはレストランなどを手がけるデザイナーに依頼。建物の外観と内装は歯科医院らしくないデザインに仕上げた。受付はカフェのような雰囲気、診療室も通路は幅広く、大きな窓の個室にはやわらかな自然光が明るく注ぎ込む。治療が長引いた場合も快適に過ごせるように様々な工夫をしている。

「大型のアロマディフューザーを複数台、設置し、院内の香りにも気を配っています。居心地のよさを理解していただけているようで、患者さんの中心は美しさに敏感な30～40代の女性です」

開業前からの入念な準備や内覧会で 患者からの信頼感を深める

院名が象徴するように、「きずな歯科クリニック」が大切にしているのが「人との絆」だ。医療を通じて地域に貢献したいという、水野院長が歯科医師を志したときからの思いが込められている。「開業したときに来院した第1号の患者さんにも、数年経って初診でいらした8000人目の患者さんにも、同じように質の高い診療とサービスを提供したい。そのためには、初日からベストの状態での診療しなければなりません。そこで、開業の1ヵ月前からスタッフと一緒に診療のシミュレーションを繰り返しました」

一般的に開業日が診療スタートとなる歯科医院は多い。しかし、新規開業の歯科医院が軌道に乗るまでには時間がかかる。事前に予想していても、始まってみると、院内の動線を把握するまでに時間がかかったり、院長とスタッフの連携がうまくいかなかったり、備品の管理が混乱したりする。これらの問題点を診療と平行しながら、

DOCTOR'S TALK

きずな歯科クリニック



エステのような空間の予防ルーム



休憩中も熱心に技術を磨くスタッフの皆さん



生け花や英会話の講習会を通じて人間力を磨く

修正していくのは大変だ。水野院長は開業初期の混乱を避けるため、準備のために1ヵ月の時間をとったのだ。

「経営面から考えれば、収入がないまま、人件費などの経費はかかるわけですから、1ヵ月もの準備期間は勇気がいります。でも、結果的には、患者さんを受け入れる前にしっかり体制を整えたことが、最高のスタートダッシュになりました。チームワークが築けましたし、周囲に歯科医院の存在を認知してもらうこともできました。私とスタッフは近隣のお宅一軒一軒を訪問して開業の挨拶に回ったんですが、そのおかげで、内覧会には700人もの方が来院してくださったんです」

医療技術の研鑽とともに教養を養い組織力を高める

「きずな歯科クリニック」のモットーはチーム医療。現在、歯科医師6人を含め、約30人のスタッフが働く。将来的にはチェアも増やし、60人ほどのスタッフで診療を行うのが目標だ。

「とはいえ、人数が揃っていても、質が肝心です。私は病院とは人が成長する場だと考えています。そのために、スタッフみんなにも社会人として深い教養も持って欲しいのです」

歯科医師、歯科衛生士の成長カリキュラムがしっかり整っており知識や技術の向上のためのマニュアルやステップごとのチェックも充実しているため、就職希望者も多い。

また、昼休みに生け花や英会話の講習会を開くこともある。

「女性スタッフは結婚や出産を機に辞めることも少なくありません。せっかく働いてもらうのですから、退職してからでも、うちの歯科医院に

勤めてよかったと日常生活の中で思ってもらえるように、成長の機会を与えたいのです」

じつは教養を高めることは、自主性を育てることに役立つ。視野が広がることで、自分が組織の一員として何をすべきなのか、気づきやすくなるのだという。

「教養の大切さに気づいたのは、開業からしばらくの間、スタッフ教育に苦労した経験があったからです。当時は優秀なスタッフを育てようと、私もつい細かく指導していました。でも、いくら厳しくしても、本人が気づかなければ身につかないんですね。自主性を育てるにはどうしたらいいか、考えた結論が教養力を高め、視野を広げてもらうことだったのです」

順調に発展する「きずな歯科クリニック」だが、目下の課題は月200人から250人訪れる純初診の患者さんにどう満足してもらうか。予約時間のやりくりにも苦労するのは人気の歯科医院ならではの悩みだ。「継続して発展させるのが経営です。開業から間もなく4年。患者さん、スタッフたちとの間に築いてきた絆を大切に、さらに大きく発展させていきたいですね」



水野院長とスタッフの皆さん

Profile

水野 貴文 先生

●2005年 広島大学歯学部卒業 後、医療法人松田歯科医院勤務 その後、ニューヨークへ渡米。ニューヨーク大学等で多数の歯科医院のスペシャリストとの交流を深める ●2008年 こころ歯科クリニック副院長 ●2009年 きずな歯科クリニック開業 ●日本口腔インプラント学会 ●筒井塾咬合療法研究会

きずな歯科クリニック

住所:兵庫県神戸市北区八多町中804 TEL:078-952-1184 <http://www.kizna-dc.com/>



SASAKI Care & Communication Vol.31 September 2013 お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。